

第7回市民文化ホール建設委員会議事概要

日 時	平成 23 年9月8日(木) 19時00分～20時50分
場 所	福祉会館 3階会議室1
出席者	<p>委 員 土井健司、徳永幸夫、阿部秀信、石川 久、石川 進、井上 仁、大西高義、合田志保、齊藤 正、篠原正博、鈴木千明、鈴木 太、高畠澄江、土谷浩也、藤原達也、古川静枝、星川将一、三谷一恵、村上典夫、守谷一郎、守谷和久、四国中央警察署</p> <p>事務局 岡企画財務部長、河村文化ホール建設推進室長、今村室長補佐 吉岡建築住宅課長補佐、文化ホール建設推進室 石川、加地、福田</p>
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	

(協議概要)

項 目	協議概要
■会議の成立について報告	委員長:委員 24 名中、ただ今 17 人の出席により委員の過半数の出席を確認したので委員会は成立。
■委員会の公開、非公開について採決	委員長:本日の議題について非公開とすべき内容がないので公開することで提案したいが反対と思われる方はいるか。(反対意見なし)反対意見がないので本委員会についてはすべて公開とします。
■協議方法について (事務局説明)	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は庁内要望を担当より説明、質疑応答をし、次回建設委員会にて改めてホールへどのように盛り込むか協議。 ・各要望項目につき5分を目安。 ・個々の質疑応答だけでは気づかなかった点や全体を通しての意見については、各項目について質疑応答の終了後、意見交換の場を設ける。
■各要望について説明・質疑 応答	<p><説明></p> <p>■多文化情報フロアーの設置について(市民交流課)</p> <p>ー 友好・交流都市の資料展示、国際交流情報の発信施設</p>

○事前質問

・多文化情報フロアーに国際交流員や担当者等の人材配置を予定しているか。

→現在は予定していない。展示は、分かりやすくパネル等で説明する予定であり、DVD 視聴やパソコン利用についてはボランティア市民活動センターに配慮のお願いをできると考えている。

・今後、海外に友好都市や交流都市の予定はあるのか。

→友好都市となると交流の行方を見極めないと調印まで踏み切れない。一方、交流都市はイタリアのファブリアーノとの交流が始まりつつあり、今後もスポーツや音楽を通じて世界各国との交流を期待している。

・常設の人的配置がない場合は、一定期間のイベント展示でよいのでは。

→常設展示のメリットはいつでも出前講座によりグローバルの人材育成の場とできることや、今まで異文化に興味がなかった方に市民文化ホールを訪れた際に関心を持っていただけること、また、交流で訪れた外国の方に四国中央市の異文化を大切に思う心をアピールできること、市内在住の外国人や四国 88 カ所の巡礼者がパソコンを利用するため、これを起点に国際交流の場となっていくのでは。

○質疑応答

委員：国際交流員等の常設予定がないとのことだが文化ホールには展示だけを考えているのか、それとも何らかの情報機器等、それを補うことを文化ホールの常設要員で受け持ち、サポート等してもらふ要素はないのか。

→備品は展示ケース、DVD プレイヤー、モニター、パソコンを想定。パソコンでスカイプを利用して市の国際交流員と外国人の相談等が可能。

委員：愛媛県内にそういう施設はあるのか？

→現時点では、スカイプを利用した施設はないのでは。四国では外国語指導助手、国際交流員が合わせて 200 名程いる。文化ホールの建設候補地がインターチェンジに近いこともあり、車での移動で交流拠点となるのでは。

■ボランティア市民活動センターについて(市民交流課)

ー 利用者の利便性、機能強化を図るため、現在商工会館内に設置しているボランティア市民活動センターの移転。

ー 避難拠点として災害時、災害ボランティアセンターの運営を補完する必要あり。

○事前質問

・ボランティア市民活動センターの必要性は理解できるが、常設の必要がないのでは。

→現在、火～金曜が10時～18時30分、土・日・祝が10時～17時まで開館、月曜および祝日の翌日を休館とし常設で運営してる。利用者やボランティアに関する問い合わせが、開所以来増加傾向であり、引き続き常設で設置することが効果的と考える。

・市民活動センターを文化ホール内に常設すると本庁各課との連絡、災害時の連携が距離的に不利にならないか。福祉会館内や新設の総合防災センター等への設置がよいのでは。

→ボランティア市民活動センター設置の重要な条件は人が集まる場所である。文化ホールは市民の交流拠点としての機能を持つことから様々な人が集まることが想定され、様々なボランティアの発掘、ボランティア活動の活性化につながると考えられる。

→本庁各課との連絡については蜜に連絡をとりあうことで支障はないと考える。

→文化ホールは被災時の避難拠点、総合防災センターは防災の拠点として位置づけられている。有事の際には社会福祉協議会が中心となり設置される災害ボランティアセンターと連携し被災者を支援する市内外からの災害ボランティアを受け入れるため、インターチェンジ付近が交通の便で最適と考える。

○質疑応答

委員：市民活動センターの通常業務とは。

→市民が気軽にボランティア活動に参加できるきっかけづくりのネットワークを広げるための支援拠点、ボランティア活動に対する支援が主。

委員：設置するスペースで何かするのか。

→ボランティアをしたい人、求める人のマッチングが重要でありマッチングすることがボランティアセンターの仕事の一つである。

委員：商工会館にあるボランティアセンターに訪れる方でどの分野の需要が多いのか、また、どの分野のサポートを考えているのか。

→福祉ボランティアが多いが国際交流、子育て、高齢者等他の分野の強化も文化ホールに移行する狙いである。

■ひとづくり支援センターについて(こども課、学校教育課、産業支援課)

ー 子育て、発達、いじめ、問題行動、非行、就職などについて幼児期から就労期に至る一貫した指導支援を行う。

○事前質問

・文化ホール内に設置するのはどうか。地域密着型で既存の施設を充実すべきでないか。

→文化ホール内への設置ではない。既存施設は文化センター等の一部を間借りしており施設の拡充は難しいと考える。文化ホールの建設場所が市境であり交通の便が良いため建設を考える。

・文化ホールに併設させる利点は。

→交通の便が良いこと、統合による各機能の強化連携を図ることできめ細やかな対応が可能、利用者の利便性およびサービスの向上を図る。

→文化と教育の中心となる文化ホールの近くに支援を必要とする方々が集える場所を設けることで、障害者に対する理解や啓発を推進し共生社会づくりの第一歩と考える。

○質疑応答

委員:必要な備品、機能はあるか。

→概要書に記載しているものは大前提として必要な備品であるが、関係各課との協議が必要になる。

委員:備品は併設されるスペースに置くものなのか。

→支援センター内の備品である。

■災害避難所について(安全・危機管理課)

ー 自家発電設備など電源確保設備、井戸、雨水タンクなど飲料水等の貯水設備、災害時、災害対策本部との情報伝達システムの構築。

■備蓄倉庫について(安全・危機管理課)

ー 災害時に備えた毛布等の常時備蓄倉庫。

○質疑応答

委員:人口から考えると備品品目の飲料水の930ℓは考えられない。

→先進地の事例を基に県の備蓄担当者会議で示した数字であり、一時であるが1,000ℓを考えている。大型店舗等の応援協定等もあり供給も間に合うのでは。数日間の対応を考えている。

■ベビーレストについて(こども課)

ー 乳児の調乳、授乳およびオムツの交換などが可能な施設。

○事前質問

委員: 離乳食の場所とオムツ交換台が近い見直しが必要では。

→ダストボックス等の位置を含め再検討が必要。

委員: プレイルームの具体的な利用方法は。

→主にオムツ交換や離乳食を与えている間、兄妹等でくつろげるスペースとしての活用を考えている。

・プレイルームの土足使用の有無について

→現時点では土足禁止を想定。

○質疑応答

・運営を含めて託児室と一緒にできるのか。

→託児室内に授乳等が可能な施設があればよい。トイレも近くにあれば不要と考える。運用は利用者で適正に使用していただくよう考えている。

・託児室を設ける場合の人材・施設面の配慮等の要望を事務局にあげてほしい。

・託児室との併用を考えると備品にモニターテレビがあればよいのでは。

■美術品収蔵庫について(総務課)

ー 寄付・寄贈を受け市で管理している美術品の保管施設。

○事前質問

・美術品の市民への公開は。

→展示をする形での公開は現在考えていない。

・今後、美術館・資料館等を整備し展示する計画はないのか。

→第1次総合計画の中で美術館・資料館等設置の記載がなく、今後、第2次総合計画の中で必要になれば計画するようになる。

・文化ホールの離れでの建設等は。

→財政のこともあり現時点では文化ホールの一角に収蔵庫を入れてほしい。

○質疑応答

委員: 美術品の展示予定はないのか。

→イベント的な展示は考えていない。壁に飾り、市民の方に鑑賞していただく機会をつくっていきたい。

■情報保障等情報コミュニケーションシステムについて(社会福祉課)

ー 耳の不自由な方等への講演等内容案内、および災害時の緊急避難

誘導設備。

■内海清美和紙人形展示室について(観光交流課)

ー 平成 18 年 9 月まで霧の森に展示してあった和紙人形のホールへの常設展示。

○事前質問

委員:定期的に入れ替えできる作品数はあるのか。常設でなくても可能か。

紙のまち資料館での常設で可能か。

→23形あり大きさも違うが半数については展示が可能。2~3ヶ月ごとの定期的な入れ替えは可能。

→人形を展示するだけでなく照明も含め作品であり、仮設では難しいと考える。

→改築費用が必要になり建設場所等を考えると文化ホールが最適であると考ええる。

委員:紙のまち資料館は管理システムが整備されておらず、現実的ではない。

委員:内海清美和紙人形はどこに保管しているのか。

→庁舎内に保管している。

■エントランスホールについて(文化図書課)

ー 書道パフォーマンス甲子園開催可能なエントランスホール

○事前質問

・書道パフォーマンスは上からの観賞が必要であるが、観客が 2,000 人以上の実績であれば建物の構造上の整合性を果たすべきだが可能か。

→延人数で 2,000 人であり、観客の出入りを考えると 1,000 人規模が観賞可能なエントランスホールが適切であると考ええる。1,000 人規模のエントランスホールが可能であれば、観客が増えてもパブリックビューイング方式の対応も考えられる。

・書道パフォーマンスの会場として、エントランスホールを最適と考えているか。最低必要面積は。屋外施設では不都合があるのか。

→要望通りの施設が可能であれば最適と考える。規模に関しては 900㎡

<p>■質疑応答(全体)</p>	<p>以下のエントランスホールでは演出を考慮すると実施が難しい。</p> <p>→屋外での実施を否定しないが、夏の開催で参加者等の健康管理面を考えるとベストではないと考える。</p> <p>○質疑応答</p> <p>委員:客席のスライド式とは。</p> <p>→川之江体育館に設置されているが、通常は収納、利用時に引き出し利用する形式である。</p> <p>委員:大会を運営にはバックヤードスペースが必要になるが、リハーサル室等必要な機能・規模を考えているのか。</p> <p>→具体的には記載していないが、選手・来賓・審判員控室等が必要であると考えている。</p> <p>委員:ふれあいコンサートと書道パフォーマンス甲子園の開催は同日か。</p> <p>→ほぼ同時期の開催では。</p> <p>委員:エントランスホールで2,000人の観客は現実的に無理である。将来の方向性も含めてどう考えているのか。</p> <p>→コロシアム形式のホールで開催するのが理想だが、立地面・アクセスを考えると文化ホールで開催することに意義があるのでは。現実的な数字で提案した。</p> <p>■展示スペース(文化図書課)</p> <p>ー 文化祭、個展を開催可能な展示スペースおよび常設展示場。</p> <p>■カフェテリア(文化図書課)</p> <p>ー 休憩、待ち合わせやケータリングで利用できるカフェテリア(もしくはコンビニ)</p> <p>○質疑応答</p> <p>委員:規模も含めレストランまたはカフェテリアのどちらを必要と考えているのか。</p> <p>→個人的な意見だが来場者の席を多くとる必要はないが、主催者側、ホール利用者、会議等の利用を考えるとお弁当・食事を提供するニーズは多い。レストラン等の規模までは必要でないとする。</p> <p>■多文化情報フロアー、美術品収蔵庫、内海清美和紙人形展示室、展示スペースについて</p>
------------------	---

委員:統合できる部分があり、市内部でまとめて要望できるのでは。

委員:重複している部分もあり、運営も含めて市との協議が必要では。

委員:市で内容をまとめて建設委員会で意見交換する形でよいか。

委員:建設委員会で意見交換し、最低限の施設をつくるのがよいのでは。

→入口の利用しやすい場所に設置するパソコン、モニターは別として考えていただきたい。

委員:内海清美氏の作品だけでなく、他の芸術家の作品についても整理する必要があるのでは。

→課単位で要望しているが、総務課で保管している美術作品についても検討する必要がある。

委員:美術作品の一覧表は公開できないのか。

→現在ある收藏品、美術品等を集約した上で公開するかどうか、また、他の芸術家の作品の整理についても視野に入れる必要があると考える。

■書道パフォーマンス甲子園について

委員:書道パフォーマンス甲子園をエントランスホールで開催するのは厳しいと思うが、概要書に記載されている大ホールはシューボックス型に限定されるのか、アリーナ型で対応可能か。

→プロセニアム形式で一般的に間口 18 m奥行 18 mの額縁をもつホールである。要望より若干小さいが、前舞台をはりだせるような形を考えられるのなら、要望している大きさを確保できなくはないが、イニシャルコストは必要になる。ホール内の 900㎡はかなり大きいスペースである。

委員:概要書に舞台後方から見学できるように記述してもよいのでは。

委員:エントランスホールを利用するのは難しいのでは。また、提案も無理があるのでは。

委員:消防法で舞台上に 1,200 人の観客をあげることに問題ないのか。

委員:今後、市の主要な事業と考えるのなら要領で舞台側に客席を設ける記述も必要になってくるのでは。

委員:書道パフォーマンス甲子園を開催できるスペースを作って欲しいのか、それとも別な場所で開催する代替案でかまわないのか、担当課の意向を確認したい。

→書道パフォーマンス甲子園はこれから先一番の核となる事業と自負し

ている。現時点では、文化ホールで開催することを絶対条件と考えている。

委員:「書道パフォーマンス甲子園」と「書道パフォーマンス」を別に考えてはどうか。

委員:「書道パフォーマンス甲子園」の開催は無理であるが、書道のイベント、展示や「書道パフォーマンス」可能なエントランスホールは必要と考える。

委員:「書道パフォーマンス甲子園」の開催可能なスペースをつくるのであれば、今まで協議してきた内容とかけはなれるのでは。

委員:大ホールでの開催が一番難しい選択肢では。エントランスホールを活用できる方法を設計で考えていく必要があるのでは。

委員:10~20年後、どういう方向で継続していくか考える必要がある。

■その他

委員:インターチェンジ付近にホールが建設されるが、行政として観光交流の視点、産業交流等に文化ホールをどう活用するか提案がないのでは。提案があれば事務局へ連絡していただきたい。

委員:文化ホールが建設されれば、近くにコンビニができるのでは。

→お弁当の注文や、未確認ではあるがチケットの取扱いも可能なら施設の中にあれば便利である。

委員:文化ホールが建設されることにより土地利用等変わってくるので、広い視野で文化ホールの活用方法を考えてほしい。

委員:今まで、市主催の事業で託児のために保育士を依頼したことはあるか。

→土居文化会館でのイベントで預かり保育の実績はある。

委員:ベビーレストから託児室へも行けるよう考えていただきたい。

→託児室にベビーレストの機能を設置していただければ別途設ける必要はないと考える。

委員:市在住の外国人約590人のうち、英語を使わない方への配慮を考えているのか。

→市在住の外国人約590人のうち400人が中国人研修生である。愛媛県国際交流協会からも中国語表記や人材教育をしている。

(閉会)